

かけはし



発行：峡南教育事務所地域教育支援スタッフ

所在地：南巨摩郡富士川町鯉沢771-2

TEL:0556-22-8154 FAX:0556-22-8144

HPでも御覧になれます。 <http://www.pref.yamanashi.jp/kyoiku-mk/index.html>

峡南地域教育推進連絡協議会 (地推協)



石原政至会長

総会開催

7月3日(火)に身延町総合文化会館にて、峡南地域教育推進連絡協議会(地推協)の総会が開催されました。石原政至会長をはじめ、理事・委員など関係者40名が出席しました。6月に行われた理事会の審議に基づき、平成29年度の事業・決算報告、平成30年度の新役員や事業・予算計画等について、慎重な審議が行われ、承認されました。この地推協は、峡南地域の連携強化や学習機会の充実を図る中で、望ましい教育環境・社会環境づくりを目指すものです。詳細は市川三郷町教育委員会、峡南教育事務所までお問い合わせください。

◆平成30年度の主な地推協役員

会長 石原 政至 氏
(市川三郷町教育委員代表)

副会長 野中 正人 氏
(富士川町教育長)

副会長 秋山 悦彦 氏 (富士川町教育委員代表)

副会長 小林 学 氏 (身延山高等学校長)

副会長 村松 正志 氏 (市川中学校PTA代表)

かけはし156号の誌面

- p1 峡南地域教育推進連絡協議会総会
海洋道中参加者決定
- p2 峡南地域 連携型中高一貫教育の実施に
関する協定書締結式
(身延高校 身延中学校 南部中学校)
砂防移動教室 (大塚小学校)
- p3 『峡南地域の食育』
(市川三郷町食生活改善推進員)
- p4 オープンスクール(増穂商業高校、市川高校、
わかば支援学校ふじかわ分校) 交流会(わかば
支援学校ふじかわ分校・鯉沢中学校)

峡南地域 異校種連携セミナー

地推協総会終了後、「異校種連携セミナー」が開催されました。本年度は、英和大学 人間文化学部 人間文化学科 準教授 佐柳信男氏をお迎えし、「教育の中で自発性を育む」と題して御講演頂きました。内容詳細は、[次号でお伝えします。](#)

フロンティア・アドベンチャー「やまなし少年海洋道中」参加者決定

6月3日に、「やまなし少年海洋道中峡南地区抽選会」が中富総合会館で行われ、峡南地域は、男子5名、女子2名の参加者が内定しました。県全体の定員は例年50名(男女各25名)で、応募総数は76名(男子55名、女子21名)、抽選倍率は男子1.9倍、女子1.0倍でした。

県の事業「海洋道中」は、今年で31年目を迎えます。これまで、八丈島の方々の支援を受けて、貴重な体験の場を提供し続けてきました。今年は、7月31日～8月8日(8泊9日)の日程で、洋上体験(船上での寝食、クルージング・外洋観察等)や自然体験(キャンプ生活・スノーケリング・サバイバル踏破等)、交流体験(八丈島の小中学生との交流)等、八丈島を満喫します。また、こうした体験活動を通して、友情・連帯・自主の精神を育み、学校や地域のリーダーとしての資質を養います。



緊張の本抽選会の様子!!

連携型中高一貫教育の実施に関する協定書締結式

身延高と身延中、南部中が連携 ～県教委と両町教委が協定を結ぶ～

来年4月の導入に向けて、5月15日に身延高校の文化創造館で協定書締結式が挙行されました。市川満県教育長、鈴木高吉身延町教育長、芦澤和彦南部町教育長が協定書に署名し握手を交わしました。連携型中高一貫教育では、現在の3校を維持したまま、授業や学校行事で連携します。協定書に明記されたのは、「中高6年間の一貫した教育を通じて確かな学力を育む」という実施目的と、推進委員会（県教委と両町教委、関係3校の校長らで構成）の設置など。今後は6年間を見通したキャリア教育や教育課程の編成を進めます。

県教委高校改革・特別支援教育課によると、昨年度3校で実施した12事業は、数学の授業などで中高の教員が相互に教え合う「授業アシスト」や合同部活動、総合学科発表会などで、本年度も継続中です。中学校教諭が高校に出向き、夏まで数英を高校教諭と協力して教えることは「高1ギャップ」の改善に効果的で、昨年のアンケート結果で、高1の4月に「授業がわかるか」という問いにYesと答えた生徒が54%なのに対し、10月には63%と「理解度の向上」が見られ、4月に「勉強ができるようになりたい」と答えた生徒は66.1%であったのに、10月には83.9%に上昇し「意欲の高まり」が認められました。こうした成果をふまえ、推進委員会は運営体制の整備など具体的な協議に入るところです。



芦澤 和彦
南部町教育長

市川 満
山梨県教育長

鈴木 高吉
身延町教育長



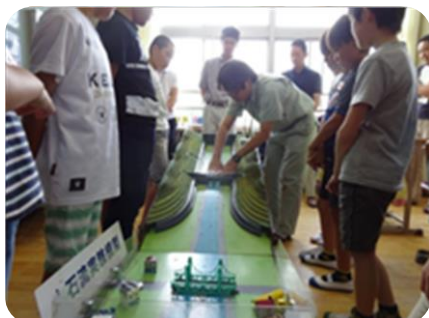
石川 君男
南部中学校長

鈴木 克志
身延高校長

井上 敬典
身延中学校長

砂防移動教室 ～大塚小学校～ 峡南建設事務所 河川砂防管理課

6月22日（金）の3校時に、大塚小学校（石原正英校長）で砂防移動教室を行いました。対象者は、5年生16名です。6月は梅雨の時期でもあり、土砂災害防止月間でもあります。峡南建設事務所 河川砂防管理課から8名の職員が来校し学習しました。職員の方々は、「明日の山梨県を担う小学生の皆さんに、土砂災害及びその防止について理解と関心を深めてもらいたい。」という想いで、



土砂災害（砂防堰堤模型）の様子

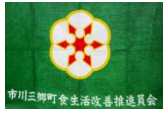
この教室を開いているそうです。

まずは、砂防についてのお話を、映像を交えながら分かりやすく説明してくれました。

次に、川での遊び方を教えてもらったり、土砂災害実験模型を使って堰堤やダムの大切さも教えてくれました。最後に、簡易雨量計のキットをプレゼントしてもらい、家庭でもできる雨量のはかり方も教えてもらいました。多くのことを学んだ「砂防移動教室」になりました。



石原正英校長



☆連載☆『峡南の食材・食育』No.21

市川三郷町「豆腐ドーナツ」と食改さん

【糖分過剰摂取に警鐘！】5月26日(土)に市川三郷町のひらしお源氏の館（大門碑林公園）にて、「いちかわみさと子育て支援フェスティバル」が開催されました。食生活改善推進員さんは「手作りおやつ試食コーナー」にて、簡単につくれる糖분을控えた手作りの「豆腐ドーナツ」を麦茶と共に提供しました。中には魚肉ソーセージやチーズが入り、子どもも大人も美味しそうにほおばっていました。推進員は「子どもにとって、おやつは食の楽しみを味わい、心を満足させるものです。愛情こもった手作りおやつには、①作る楽しさ、②食べる楽しさ、③家族とコミュニケーションをとる楽しさがあり、思い出として心に残ります。」と、多くの親子に紹介していました。



展示では現代の生活での糖分過剰摂取を取り上げました。清涼飲料水のエネルギー量を砂糖で表すと、炭酸飲料やジュース500mlにはスティックシュガー（3g）が約17本分、スポーツドリンクには8～12本分が含まれていることを実物を用いて示しました。来場者は「気づかぬうちに、健康を害するほどの糖분을摂取していること。」を再認識していました。



加藤幸恵 会長

【市川三郷町の食改さん】

市川三郷町の食改さんこと「食生活改善推進員」は、加藤幸恵会長を含めて、今年度は110名で活動しています。「私たちの健康は私たちの手で」をスローガンに、「食」を通して学び、町民に啓発活動を行っています。地域の健康づくりや食生活改善のために、幼児健診でのおやつ配付、男性のための料理教室、親子料理教室等、広く活動しています。

《レシピ紹介》【豆腐ドーナツ】

◎材料（約20個）ホットケーキミックス 150g 揚げ油適量 絹ごし豆腐80g
お好みの具材（ドーナツ 中心に入れる魚 肉ソーセージ・チーズなど） 適量

◎作り方

- ①お好みの具材を適当な大きさに切る。
- ②ボウルに豆腐を入れ、つぶしながら混ぜる。
- ③②にホットケーキミックスを加え混ぜる。
- ④③を20等分し具材を入れて丸める。
- ⑤170～180度の油で、焦がさぬよう揚げる。



増穂穂商業高校 1日体験入学

増穂穂商業高校（加々美裕司校長）は、6月23日（土）に学校説明会を開催しました。中学生51名、保護者・中学校教員42名の計93名の参加があり、学校説明、体験授業、部活動見学が実施されました。増穂穂商業生からオリジナル開発商品の説明があり、店に出店した「いきいきショップ増商」では、「福箕餅（ふくみもち）」や「ふじロフ」の販売がありました。体験授業では「ビジネス実務」、「総合実践」、「情報処理」、「プログラミング」の授業が開校され、中学生は興味をもって取り組んでいました。部活動見学は、野球、バレーボール、ソフトテニス（男女）、弓道、陸上、卓球、バドミントンで実施され、活気に溢れていました。



加々美裕司校長



市川高校 Open School

市川高校（田之口晃士校長）は7月7日（土）にオープンスクールを開催しました。中学3年生266名とその保護者210名、中学校教員8名の計484名の参加がありました。体育館では、入試説明、進路概要・実績、学校紹介、学園祭のダンス発表、音楽部コンサート、イフトーク（市川高校生の本音を語る会）が催され、充実の内容でした。校内では国・数・英・日本史・生物の公開授業、部活動・英語科ワークショップ等の見学・参加体験がありました。その後、部活動体験・見学、英語科ワークショップがあり、保護者質問コーナーも開設されました。体験入部を実施した部は、バスケットボール（女）、バドミントン（男女）、空手道（男女）でした。部活動見学が実施された部は、音楽、吹奏楽、茶道、美術、書道、華道、写真、ESS（英語部）で、盛況でした。



田之口晃士校長



わかば支援学校 ふじかわ分校 ・ 鯉沢中学校 交流会

わかば支援学校ふじかわ分校（跡部和男校長、穴山久樹副校長）と、鯉沢中学校（石井泉校長）は6月26日（火）に分校内の多目的ホールで交流会を実施しました。この会は毎年この時期に両校の間で実施され、今年で8年目になります。「交流を通してお互いを理解し合うこと」が目的です。全体で60分で、ふじかわ分校のダンス発表「カラフル（ファンキー加藤）」で始まり、活発な身体表現がなされ、練習の成果を十分に発揮しました。次に鯉沢中学校1年生の合唱「旅立ちの時～Asian Dream Song～」の発表があり、参加者は美しい歌声に聞き入りました。その後、4グループに分かれて様々な縄跳びに挑戦し、最後には「大縄跳びを何回跳べるか？」など練習の成果を発表し合いました。笑顔溢れる交流会でした。



穴山久樹副校長

石井泉校長

Open School わかば支援学校ふじかわ分校は、6月30日（土）に分校内でオープンスクールを開催しました。学校説明に続き、授業参観があり、その後、教育相談予約の時間が設けられました。授業は、小学部1・2年生は生活単元学習「パン作りをふりかえろう」、5・6年生は「校外学習の事前学習をしよう」、中学部は作業学習「実際に作業をしてみよう」（手工芸班・木工芸班）という内容で、集中した取り組みが見られました。児童や生徒一人ひとりに配慮の行き届いた丁寧な指導が展開され、参加者は熱心に参観していました。